

議会

- 第4回定例会 -

12月16日に招集された第4回定例町議会は、19日、全日程を終えて閉会しました。

今定例会では、小竹町長、杉本教育長の行政報告、補正予算などが審議されました。町長と教育長の行政報告(抜粋)について、お知らせします。

町長行政報告

臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金の支給結果について

本年4月の消費税率の引上げに際し、国は低所得者や子育て世代の負担軽減を目的とする「臨時福祉給付金」及び「子育て世帯臨時特例給付金」の二つの給付制度を創設しました。本制度につきまして、申請受付及び支給を行いましたので、結果などについてご報告申し上げます。

本制度は、申請行為を基本としており、給付対象者に確実に周知し、申請に漏れが生じることがないように、早期の制度周知を進めるため、「臨時福祉給付金」は、町内全世帯に対し5月29日、給付制度の案内と併せ、

税情報把握するための「税情報利用同意書」を同封し発送しております。また「子育て世帯臨時特例給付金」につきましても、児童手当の対象である全世帯に5月30日に申請書を発送いたしました。

次に、申請受付の開始時期ですが、臨時福祉給付金につきましては、町民税非課税者を対象とすることから、平成26年度分町民税の確定後とし、加算措置の対象に係る日本年金機構の基礎年金などデータの提供時期を勘案し、両給付金ともに7月1日から申請の受付を開始するとともに、各地域の移動窓口を7月3日から11日までの間、7日間14カ所開設し、申請期限は10月31日までとしたところであります。

次に支給結果ですが、7月1日から10月31日までの4カ月間の申請受付により、臨時福祉給付金は、支給対象見込者1362人に対し1251人(787世帯)の方が支給し、給付総額は1651万5千円、給付率は91.9%となりました。また、子育て世帯臨時特例給付金は、支給対象見込者605人に対し、604人(355世帯)の方が支給し、給付総額は604万円、給付率99.8%の実績となっております。

福祉灯油支給事業の実施について

福祉灯油支給事業は、灯油価格の高騰や高止まりにより日常生活への影響が極めて大きい高齢者世帯や障

がい者世帯・ひとり親世帯で低所得者の方を対象にした、単年度限りの暖房用灯油購入支援対策であり、最近では平成24年度、25年度にも実施しているところであります。

本年度におきましても灯油価格の動向を注視してまいりましたが、基準としております、本町における11月1日現在の灯油価格は1リットル当たり消費税込みで平均108円と、昨年同時期と比べて3円ほど値上りしております。

依然として灯油価格は高止まりの傾向が続くと予想されており、影響を特に大きく受ける方々への支援が必要と判断いたしました。本年度も「あつたか灯油券」を支給させていただきますと考えております。

対象となる方は、昨年度同様「65歳以上の高齢者世帯」「障害者手帳をお持ちの方がいる世帯」及び「ひとり親世帯」の方々と、本年度の町民税非課税世帯に該当する方々とし、灯油券1万円分を支給させていただきます。ところで、明年1月中旬から受付を開始する予定としております。

就業・地域生活さばりとセンター整備事業の進捗状況について

本事業につきましては、当初、平成26年10月頃に入札を行い、平成27年3月中の完成を予定していましたが、先般、法人から工事の発注や完成の遅れに関する報告を受けたところでありました。

教育長行政報告

教育委員の活動について

帯広市と清水町の学校視察と、日高管内の新築校舎の視察研修を行っております。

学校教育の推進について

学力調査結果の公表については、町民の皆様には「教育委員会だより」をとおし詳細を公表しております。各学校における学習発表などについては、地域の方々の指導も取入れるなど、新しい取組もあり、質の高い発表が見られました。また、新冠中学校でのキャリア教育ではド・レ・ミ園での保育実習をとおし、働くことの厳しさや楽しさを学んでおります。

認定こども園ド・レ・ミの教育・保育について

地域の協力を得て、安全教室や乗馬体験を実施いたしました。また、おゆうぎ会では、練習の成果を十分に発揮し沢山の声援をいただきました。

11月27・28日に実施しましたフリー参観日では、2日間で延べ130名の保護者、地域住民、教員など多くの方々に参加いただきました。例年実施しております高齢者施設訪問については、踊りや歌などを披露し、異世代の交流やふれ合いの貴重な時間となりました。

社会教育の推進について

レ・コード館ジュニアジャズバンド

報告によりまずと、本体の整備内容や予算面について、再度、理事会で協議を重ねた結果、利用者視点に立った施設整備とし、暑い時期における快適な利用を図るための冷房設備の導入や、玄関の自動ドア化、エレベーター設備などで高圧受電設備が必要になったことや、建物本体にかかる設備、仕様の変更により大幅な設計変更が生じ、発注事務が遅れている状況とのことでありました。

今後のスケジュールであります。12月下旬に入札及び契約を行い、1月に着工、6月末に完成を見込み、開設につきましては、8月下旬を予定しているとのことでありました。

なお、工事の遅れに伴い、町からの補助金につきましては、平成27年度へ繰り越しを予定しており、これら関係手続きなどについては、3月定例会で提案を予定しております。

平成26年度一次産業の概況についてはじめに農産部門ですが、水稲は全道的に作柄が良く、日高地方の作柄も「良」という結果となり、本町では作付農家数、面積とも減少いたしました。出荷された収量は前年を13トン上回る結果となりました。

水稲は、自家販売を含めた全体の作柄は前年を上回るものと推測され、品質につきましては、色彩選別機を活用し丁寧な調整に努められた結果、製品歩留まりは前年並みの93.1%となり、全量一等米となりました。

販売単価につきましては、販売金額は前年から2千3百万円減の1億719万4千円となりました。そ菜につきましては、主力作物の収量が増加したこともあり、総販売額は前年を1千7百万円ほど上回る6億3577万2千円となりました。

基幹作物でありますピーマンは、収量が前年を300トン上回り、1594トンとなりました。また、販売単価につきましては、昨年の単価には及ばなかったものの、平年単価を上回る327.7円を確保し、販売額は生産開始から初めての5億円を超える5億2239万2千円となりました。

軽種馬生産であります。町内生産馬の北海道市場販売取引は、売却頭数が234頭で、前年から26頭の増となり、売却率は10.6%の増、売却額は1億7500万円増の10億9414万8千円となりました。酪農につきましては、乳量は微増し、乳代もキロ当たり5円47銭上昇したこと、前年を3千3百万円ほど上回る6億9337万4千円となりました。



牧場風景

販売単価につきましては、販売金額は前年から2千3百万円減の1億719万4千円となりました。そ菜につきましては、主力作物の収量が増加したこともあり、総販売額は前年を1千7百万円ほど上回る6億3577万2千円となりました。

次に水産業ですが、本年11月末までの魚種別漁獲状況は、主力となる秋サケ、タコの漁獲量が減少し、全体の漁獲量は前年を119トン下回る758トンとなりましたが、販売単価が高水準であったことから、漁獲高は前年を600万円ほど上回る3億8135万4千円となりました。

このうち、秋サケにつきましては、前年を126トン下回る526トンの結果となりました。販売単価は前年を上回りましたが、漁獲量の減少が大きく、漁獲高は前年を1600万円ほど下回る2億7415万8千円となりました。コンブにつきましては、天候に恵まれたこともあり、漁獲量は前年から11トン増、漁獲高も前年を1400万円ほど上回る1682万5千円となりました。



秋のおたのしみ広場

下定期演奏会がレ・コード館において交流演奏を交え開催されました。町民センターにおいて幼児、保護者230名の多くの参加を得て「秋のおたのしみ広場」が実施され音楽鑑賞や楽器づくりなど親子で楽しむ1日となりました。

小学生を対象とした学び遊ぶ通学合宿事業では、4泊5日の日程で集団生活や生活習慣の改善を体験してまいります。高齢者大学では、介護予防教室と連携して事業を実施いたしました。資料館事業では、「新冠の伝説・昔話パネル展」を開催しアイヌ伝説や判官館伝説についてのパネルを展示しております。秋の読書週間では映画会、朗読とチェンバロを組み合わせた「朗読と音楽の調べ」が好評でした。長崎国体において当町乗馬少年団に所属する3名が優勝する快挙を成し遂げました。

【次号、「教育委員会だより」において詳細を掲載いたします。】